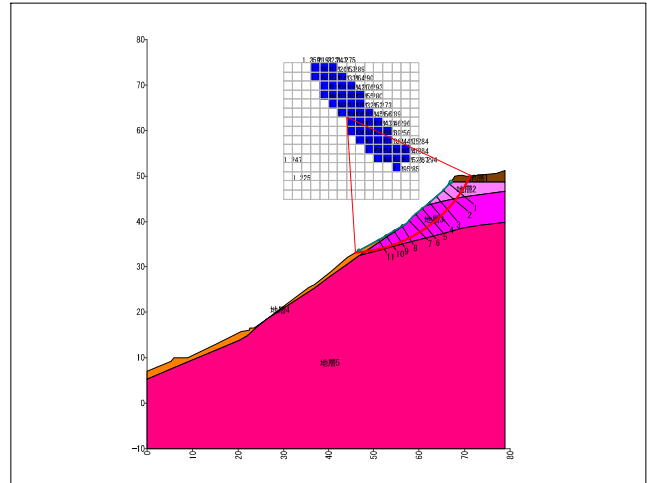


現場名 :
ケース名 :
備考 :



○ 検討条件

安定計算手法 : 繰返し円弧で検討する。
すべり面強度 : 逆算法で土質定数を決定する。

○ 安定解析結果

計画地形に対して安定計算を行う。 [計画安全率: $F_{sp} = 1.200$]

最大抑止力円弧 $P_{rmax} = 130.8\text{kN/m}$ 、 $F_s = 1.062$

最小安全率円弧 $P_r = 108.2\text{kN/m}$ 、 $F_{smin} = 1.011$

補強材の配置検討に用いる代表円弧の選定を行う。

円弧A $P_r = 130.8\text{kN/m}$ 、 $F_s = 1.062$

○ 補強材の配置

補強材の配置計画を行い、安全率について照査する。

[ネジ節棒鋼 (SD345) D19、全長(最大値) 7.000m、縦間隔 2.00m、水平間隔 2.00m、施工段数11段]

円弧A $P_r = 130.8\text{kN/m}$ 、 $F_s = 1.062$ [補強前]、 $F_s = 1.205$ [補強後]

○ 補強後の安全率照査

補強後に対して、繰返し円弧による安定計算を行い、
すべての円弧に対して安全率の照査を行う。

補強後の最小安全率 $F_{smin} = 1.205$

補強材の規格・配置決定

[ネジ節棒鋼 (SD345) D19、全長(最大値) 7.000m、縦間隔 2.00m、水平間隔 2.00m、施工段数11段]

○ のり面工の設計

設計引張り力 T_d の最大値

$T_d = 36.022\text{kN/本}$ ($T_o = 36.022\text{kN/本}$ 、 $\mu = 1.00$)

のり面工の規格決定

プレストネット工法(PN- $\phi 500-\phi 12.5SS400$)

斜面安定解析による復旧対策工の解析事例